

1 単元名 場面の様子を想像しながら読み、おはなしハウスカードを作ろう

(「おとうとねずみチロ」)

2 単元の見聞

- 好きな本や文章を見つけて、楽しんで読書しようとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- 場面の様子について、登場人物の行動や会話に着目し、想像を広げながら読むことができる。
(読むこと)
- 様子や気持ちを表す言葉に気を付けて読むことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、国語の学習に意欲的に取り組み、読書が好きな児童が多い。7月には「おおきなかぶ」で事柄の順序を考え、登場人物や場面の様子を想像しながら読む活動を行った。登場人物の気持ちを考えて音読できるよう、動作化を取り入れたことで楽しんで読むことができた。

9月の「かいがら」では、「マイ吹き出し」を作る学習活動を行った。児童は、好きなどころの登場人物の行動や会話に着目して気持ちを想像して吹き出しに書くことができた児童は、約3割だった。その一方で、約*割の児童が、読んで想像したことや考えたことを言葉で表現することが不十分だった。これは、叙述をもとに登場人物や場面の様子を想像しながら読む学習経験がこれまで少なかったためだと考える。

そこで、「かいがら」で叙述を正しく読み取ることができるよう、教科書教材にサイドラインを引いたり、音読したりしてきたので、本単元でも継続して行い、そのことを基に想像を広げることができるよう指導していく。また、児童は友達と交流するよさを実感できていない児童が半数いることが分かったので、伝え合い活動を取り入れ、自分の考えを明確にする手立てとしていく。

【意識調査】

(平成*年*月*日 第1学年*組*人)

項目	一人での学習	ペア学習	グループ学習	一斉学習
どんな学習の仕方のときが、一番分かりやすいですか。 (1つに○)	*人	*人	*人	*人

【実態調査】

(平成*年*月*日 第1学年*組*人)

① 好きなどころの登場人物の行動や会話に着目して気持ちを想像して吹き出しに書くことができる。 (教科書教材「かいがら」)	叙述を基に想像を広げた記述ができている。 *人	叙述を根拠に記述できているが、想像を広げて読んでいない。 *人	叙述を基にした想像を広げることができない。 *人
	・なみのおとがきこえてきて、うみにはいつてるみたいだね。こんどいっしょにうみにいこうね。	・うさぎちゃん、かいがらのおとがきもちいいね。 (ヒントカードの言葉をそのまま使っている。)	・うさぎさん、っこりしたところがかわいいね。 (叙述と無関係) ・うさぎちゃん、あげるよ。 (会話文そのまま)

(2) 言語活動とその特徴

本単元では、第1学年及び第2学年「C読むこと」の言語活動例「オ読んだ本について好きなどころを紹介すること」を受けて、「場面の様子を想像しながら読み、おはなしハウスカードを作る」ことを言語活動として位置付けた。おはなしハウスカードでは、物語の好きなどころを選び、その理由などをまとめて紹介するためのものである。こうしたおはなしハウスカードを作ることは、登場人物の行動や会話に着目して場面の様子を捉えたり、想像したりすることにつながる。よって、本単元でねらう「場面の様子について、登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読む」を実現するために主体的に取り組むことができると考える。

(3) 教材観

本教材は、おばあちゃんからチョッキを楽しみに待つ弟ねずみチロの行動や気持ちを中心に描かれた物語であり、場面の展開やチロの行動が捉え易い。また、チロの行動や会話には気持ちの変化が分かる叙述が多く書かれているので、人物の気持ちや場面の様子を想像することが容易である。したがって、場面の様子を想像しながら読むのに適した教材であると考えられる。

(4) 指導観

本単元では、「場面の様子について、登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読むこと」「C読むこと」(1)ウを身に付けさせるために、言語活動として「場面の様子を想像しながら読み、おはなしハウスカードを作る」ことを位置付ける。

第一次の単元の導入で、図書事務によるアニメーションを行い、人物が明確で行動に着目しながら楽しんで読める本を紹介することで、学習への動機付けを図る。その後、「おはなしハウスカード」のモデルを掲示することで、学習のゴールを具体的にイメージできるようにする。おはなしハウスカードを2年生に紹介するために、大体のあらすじを捉えることや場面の様子をおさえることが必要であることを確認しながら、学習計画を一緒に立てていくことで、児童が主体的に学習を進めていけるようにする。また、児童の実態に合わせた並行読書の本を紹介し、いつでも読めるように読書環境を整えておく。

第二次では、まず始めに教科書教材を使って①大体のあらすじを捉える。②登場人物の様子や気持ちが分かる言葉や文、会話から人物像をまとめ、好きな場面を決める。③好きな場面の理由を考える活動を行う。④「おはなしハウスカード」にまとめる。教科書教材の全文シートを掲示することで、場面のつながりや移り変わりを捉え易くし、全文を見通して確かめることができるようにする。

第三次では、並行読書材で①～④を行う。教科書教材と並行読書材を交互に行うと、児童の混乱を招き、お話を生かした言語活動ができなくなる恐れがあるため、物語ごとに学習することとする。また物語ごとに学習することで、並行読書材で学習するときには、教科書教材で身に付けた力を生かすことができると考えた。

教科書教材を読む際には、登場人物の気持ちが分かる言葉や文、会話にラインを引いたり、並行読書材で自分が選んだ本を読む際は、登場人物の気持ちが分かる言葉や文、会話に付箋を貼ったりして、好きな理由をまとめる活動に生かしていく。好きな理由を書く際には、随時「感想語彙集」や教室内に掲示してある気持ちを表す言葉を活用できるようにする。実物投影機で手本となるノートを映し、可視化することで全体で共有できるようにする。交流の時間では、グループ→全体が一般的だが、全体→グループで行う。1年生にやり方を指示してもすぐグループ学習に生かすことは難しい。よって、まず全体の場で交流の仕方を確認し、イメージがつかめてきたらグループで交流するようにする。板書構成では、タイムスケジュールを掲示し、1時間の流れを全体で確認することで、1時間の見通しをもって活動できるように工夫する。

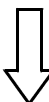
第四次では並行読書で読んだ本の中から、お気に入りの本の一番好きなところを「おはなしハウスカード」に書き、2年生に紹介する。また「おはなしハウスカード」を学校内に掲示して、友達の多様な考えを知ったり、日々の読書意欲を高めたりしていきけるようにする。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・好きな本や文章を見つけて、楽しんで読書しようとしている。	・場面の様子について、登場人物の行動や会話に着目し、想像を広げて読んでいる。 C-U	・様子や気持ちを表す言葉に気を付けて読んでいる。 I-U

5 単元の指導計画(10時間扱い)

次	時	主な学習活動	主な評価
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ・アニメーションを聞く。 ・教師自作の「おはなしハウスカード」のモデルを見ることで、学習の見通しをもつ。 ・「おはなしハウスカード」を作るためには、どんな学習が必要かを話し合い、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おはなしハウスカード」に興味をもち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)

		<ul style="list-style-type: none"> ・学習の最後には、2年生に「おはなしハウスカード」を紹介することを知らせる。 	身に付けた力を生かすための並行読書 	
二	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「おとうとねずみチロ」の大体のあらすじを捉える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物やその行動に注目して読み、大体のあらすじを捉えている。 (読む能力)
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・チロの様子や気持ちが分かる場所を探して、人物像をまとめる。 ・自分の好きなところを決める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の特徴が分かる行動や会話を見つけ、人物像を捉えている。 (読む能力)
	4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・「おとうとねずみチロ」で、前時に決めた好きなところの理由をノートに書く。 		<ul style="list-style-type: none"> ・好きなところの理由を登場人物の行動や会話から想像してノートにまとめている。 (読む能力)
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「おとうとねずみチロ」の好きなところや理由を「おはなしハウスカード」に書く。 		<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動や会話を基に想像を広げ、まとめている。 (読む能力)
三	6	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ本の大体のあらすじを捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物やその行動に注目して読み、大体のあらすじを捉えている。 (読む能力) 	
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ本で、登場人物の様子や気持ちが分かる場所を探して、人物像をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の特徴が分かる行動や会話を見つけ、人物像を捉えている。 (読む能力) 	
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなところを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなところの理由を登場人物の行動や会話を基に想像を広げておはなしハウスカードにまとめている。 (読む能力) 	
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ本で、前時に決めた好きなところの理由をノートに書く。 ・自分が選んだ本で、好きなところや理由を「おはなしハウスカード」に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様子や気持ちを表す言葉に気を付けて読んでいます。 (言語についての知識・理解・技能) 	
四	10	<ul style="list-style-type: none"> ・「おはなしハウスカード」を2年生に紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おはなしハウスカード」を基に2年生に紹介し、これからも読書を楽しもうとしている。 (関心・意欲・態度) 	

6 本時の学習

(1) 目標

好きなところの理由を、登場人物の行動や会話を基に想像してまとめることができる。

(2) 準備・資料

- ・学習計画表 (掲示用) ・グッドモデル (掲示用) ・タイムスケジュール (掲示用)
- ・全文シート (掲示用) ・感想語彙集 (各自) ・タブレット ・振り返りカード
- ・テレビ ・おはなしハウスカード (掲示用) ・ヒントカード

(3) 展開

○個への配慮 (評) 評価

学習活動・内容	指導上の留意点 (太字は伝え合い活動)
1 本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> すきなところのわけをそうぞうしてかこう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画表で本時までの学習内容を指差し確認する。 ・本時のゴールを提示し、学習の見通しをもてるようにする。
2 課題を解決する。 (1) 好きなわけの書き方について確認する。 グッドモデル <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> すきなところ (叙述) 「そうだ。いいことかんがえた。」 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなわけを書いたモデルを提示し、好きなわけの書き方を確認する。 ・好きなところの叙述をテレビに映し、必ず叙述から想像して書くことを確認する。 ・叙述から想像して書いたことにラインを引いて目立たせ、意識付けを図る。

チロはそとへとび出していきました。

すきなわけ

すきなわけは、チロがいいことをおもいついてとび出すくらい、うれしそうだからです。チロは、はやくおばあちゃんにチョコッキをおねがいしたかったんだとおもいます。

(2) 音読する。

- ・一人読み

(3) 好きなわけを想像しながら読み、ノートにまとめる。

すきなところ (叙述)

「おばあちゃん、ぼくはチロだよ。しましまのチョコッキ、ありがとう。」チロは大ごえでさげびました。

目指す児童の姿

すきなわけは、チロがチョコッキをもらって、大ごえでさげぶところがすごくうれしそうだからです。チロは、チョコッキをだいにするとおもいます。

(4) 伝え合いをする。全体→ペア

【伝え合いのポイント】

- ・教科書のどこの部分からそう思ったのかを伝え、一緒に音読する。

〈伝え合いの仕方〉

- ・〇〇と書いてあるところから～だと思いました。
- ・～がいいね。

3 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。

(1) 振り返りカードに記入し、発表する。

目指す児童の姿

じぶんのすきなところのわけをしたことやいったことからかながえてかくことができました。

(2) 次時の学習内容について見通しをもつ。

- ・前時で選んだ好きなところを確認するための音読であることを助言し、音読の目的を明確にする。

○音読が進まないと予想される児童には、一緒に音読する。

- ・感想語彙集や教室に掲示してある言葉をヒントに考えてもよいことを伝え、自分の気持ちに合う言葉を考える手がかりにする。

○想像することが苦手な児童には、ヒントカードを渡したり、動作化を通して気持ちを考えさせたりして、想像しやすくする。

○早く終わった児童同士で全文シートを指差しながら「どうしてそう思ったのか。」「どこからそう思ったのか。」など叙述を基にした考えを交流する。

(評) [読む能力]

好きなところの理由を、前時までに教科書教材にサイドラインを引いたり、ノートに書いたりした行動か会話から想像し、ノートにまとめている。

(ノート・観察)

○好きなわけをうまくまとめられなかった児童には、友達との交流後に書いてもよいことを伝える。

- ・まず、教師と児童全体で交流することで、伝え合いの仕方のイメージをはっきりもたせ、全員が自信をもって交流ができるようにする。

- ・伝え合いのポイントを押さえて交流ができていないか机間指導し、称賛したり助言したりする。

- ・本時のねらいに沿った内容を書いた児童は発表し、良い点を共有できるようにする。

- ・本時のねらいに沿った振り返りをしている児童を中心に発表させ、全体で共有する。

- ・次時では、本時で学習したことをもとにおはなしハウスカードを書くことを伝える。